

2020/2/25

「花束を君に」は亡き母 藤圭子に宛てた手紙だった

なんと悲しくも美しい歌でしょう。泣いてしまいそう！

「花束を君に」を聴いたときそう思いました。

ただ事でない事情がありそうなので、詳しく調べてみたくなりました。

宇多田ヒカルさんの母 藤圭子さんは、2013年8月22日の朝、マンションから飛び降り、突然この世を去りました。重度のうつ病による自殺でした。

藤圭子さんが亡くなってから3年たった2016年、ヒカルさんはご自身の作詞作曲による「花束を君に」を発表しました。

この歌は、亡き母に宛てた手紙だった、とヒカルさんはテレビ番組で明かしておられます。ではその手紙の内容を見てみましょう。

♪ 普段からメイクしない君が薄化粧した朝 始まりと終わりの狭間で 忘れぬ約束した

冒頭で、普段からメイクしないのに旅立つために薄化粧をした「君」の姿が描写されています。身近な人の死を看取った朝と推察できます。

「君」とは誰？ それは生と死の狭間で忘れぬ約束をした相手で、既にこの世にいない人のようです。そう「君」とは、母 藤圭子さんのことです。

♪ 花束を君に贈ろう 愛しい人 愛しい人 どんな言葉並べても 真実にはならないから
今日は贈ろう 涙色の花束を君に

宇多田ヒカルさんにとって、母でありそして尊敬する歌手でもあった藤圭子さんへの愛しい想いが綴られています。

亡くなった人には、言葉を交わすことはできません。たとえ届けたい言葉を発しても、もうそれは本当の言葉として届かないのです。

それで今日は贈ろう、涙という「花束」を。

♪ 毎日の人知れぬ苦労や淋しみもなく ただ楽しいことばかりだったら
愛なんて知らずに済んだのにな

ただ自分だけが楽しい時間を過ごしていたのでは、「愛」という感情は育ちま

せん。相手の苦労や淋しさを目の当たりにし、相手のために何かをしてあげたい、支えてあげたいという気持ち、それが「愛」というものです。

愛が深いほど愛する人を失った時の悲しみは比例して大きくなります。

「愛」を知らなければこんなに悲しむことはなかったのに、と深い悲しみを表現しています。

♪ 花束を君に贈ろう 言いたいこと言いたいこと きっと山ほどあるけど
神さましか知らないまま 今日贈ろう 涙色の花束を君に

「愛」を教えてくれた母への感謝の気持ち、悲しい感情など、言いたいことが山ほどあるのに、今となってはその言葉が届かない。

♪ 両手でも抱えきれない まばゆい風景の数々を ありがとう

花束を贈るのはヒカルさんの方からだけではありません。

むしろ今まで母から花束をもらってきたのです。

母から受けた愛情こそ1本1本の花でした。それがまとまって両手でも抱えきれないほどの大きな花束になっています。ありがとう！

♪ 世界中が雨の日も 君の笑顔が僕の太陽だったよ 今はつたわらなくても
真実には変りないさ 抱きしめてよ たった一度 さよならの前に

どんなに辛いことがあっても、母の笑顔がいつでも支えてくれました。

そのことを今は伝えられませんが、事実として心の中にしまっており、しかし叶わぬことですが、現実にはたまった一度でいいから抱きしめてほしい！

♪ 花束を君に贈ろう 愛しい人 愛しい人 どんな言葉並べても
君を讃えるには足りないから 今日贈ろう 涙色の花束を君に

母への敬意と愛しい気持ちを表すには、その気持ちを涙に凝縮し、その涙を「花束」として贈ることが、今私にできるただ一つの方法なのです。

「花束を君に」は、朝ドラ「とと姉ちゃん」の主題歌として起用されました。このドラマは、三姉妹の長女が、亡くなってしまった父親（とと）に代わって、母・妹を支えていくために奮闘するというストーリーです。

「花束を君に」は、「とと姉ちゃん」のストーリーとは直接関連はないのですが、愛する父親の死という部分で共通点があるようです。

私にとって忘れられない1曲になりそうです。

亀岡弘志（記）